

## 12.2 反プルサーマルの日

# 玄海原発プルサーマルは 住民が“モルモット”です



2009年12月2日、九州電力は玄海原発3号機で日本初のプルサーマル運転を強行しました。通常のウラン燃料にプルトニウムを混ぜたMOX燃料を使うプルサーマルは危険極まりないものです。

当時の古川康・佐賀県知事と玄海町長は安全が確認されないのに、私たちの不安を無視して運転を了解しました。その3号機がプルサーマルと分かっていながら、山口祥義知事は再稼働に同意し、去年再稼働されてしまいました。来年9月には猛毒の使用済みMOX燃料が出てきますが、処理方法は何も決まっています。

私たちは理解も納得もできないと、毎年この日に玄海町でのポスティングなどプルサーマル反対・原発反対の行動を続けてきました。今年もこの日にみなさんに本当のことをお伝えしたいと、チラシを戸別配布しています。

## ！ 猛毒のプルトニウムを使うプルサーマル

- ①玄海3号機はプルサーマル。燃料193体のうち32体は、使用済みウラン燃料を再処理して取り出したプルトニウムを混ぜたMOX燃料。**プルトニウムは長崎原爆と同じ核兵器の材料。**
- ②**プルトニウムが持っている放射線の毒性は、ウランの持つ放射線の毒性の20万倍、超危険な猛毒物質。**（「第116回小出裕章ジャーナル」より）
- ③原子炉の制御棒の効きが悪くなり、事故時の放射能被害の範囲はウラン燃料の4倍になる。
- ④**MOX燃料の値段はウラン燃料の9倍。**高くつくのは、プルトニウムの放射能の高さのために加工費が非常に高いから。（『核情報』MOXプルサーマルの基礎知識より）
- ⑤**使用済みMOX燃料は発熱量が大きく、使用済みウラン燃料と同程度に冷えるまでに「300年以上かかる」と国は答えました。**九電は「当面の間」としか言わないが、使用済みMOX燃料を300年間プールで安全に保管できる保証はない。
- ⑥日本でこれまでにつくられた**プルトニウムは、すでに核兵器約6000発分。**潜在的核保有国となっている。

## ！ 使用済み核燃料は増え続け、 玄海は永久に「核のゴミ」置き場に

- ①原発を動かせば、放射能まみれの使用済み核燃料が必ず出てくる。
- ②搬出先の青森県**六ヶ所村の再処理工場**の使用済み燃料プールは**すでに満杯**（98.9%）。再処理工場は**24回「完成延期」**し、いまだ完成していない。

## “核燃料サイクル”は破綻している

③玄海原発のプールも8割がすでに埋まっている。あと数年で満杯に。

④九電がやろうとしている「リラッキング」は、使用済み核燃料をぎゅうぎゅう詰めにして貯蔵量を2倍にするもの。発熱量が高くなり、燃料溶融のリスクが高まる。

⑤九電が「乾式貯蔵施設」を建設すれば、高温で危険

で行き場のない使用済み核燃料がさらに増えることになる。

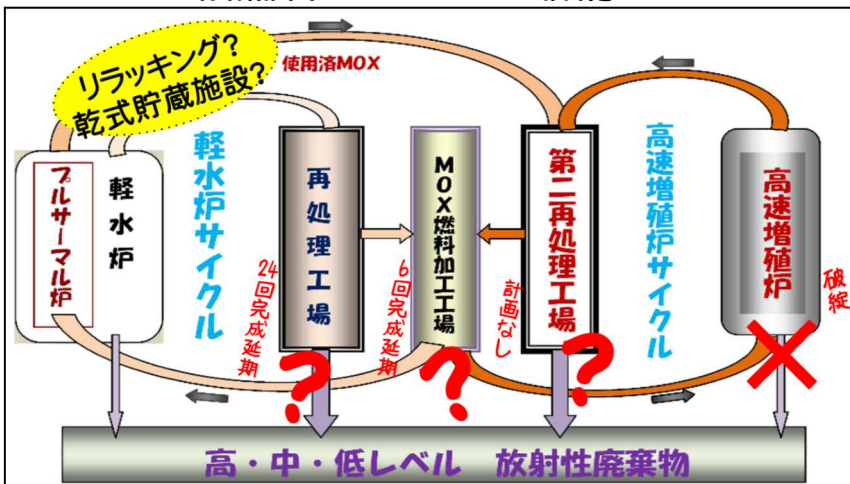
⑥乾式施設に搬入前にプールで冷やす必要があり、プールの危険性は高いまま。

⑦乾式施設で使用済み燃料を収容する金属キャスクは損傷があっても、蓋を開けて点検・修理ができない。

⑧国の進める“核燃料サイクル”は破綻。最終処分場所も方法も決まっていない。

⑨猛毒の「核のゴミ」は永久に玄海の地にとどめ置かれることになる。

そんなこと許せますか？



## ！ 原発は放射能被ばくを押しつける

原発は“トイレなきマンション”。10万年先の未来まで放射能の管理が必要な核のゴミです。

原発は事故が起これば、放射能をまき散らし、私たちの命を脅かし、ふるさとを奪います。事故がなくても、放射能を出しています。被ばく労働という犠牲を常に伴います。

玄海原発は6年3か月動いていませんでした。電気は足りています。

東京電力福島原発事故の甚大な犠牲を忘れてはなりません。

命と暮らしを守るために原発を止めましょう！



池辺・九電社長のことば

核のゴミの最終処分は国民みんなで努力を！

九電が出した核の産業廃棄物を住民に押しつけないでください！



「テロ対応施設」も「緊急時対策棟」も未完成。基準地震動見直しも「猶予」。事故や災害はいつ起きるか分からないのに、すべては、住民の命よりも目先のカネですか？

座談会しませんか？  
みなさんの声を聞かせてください。



玄海原発プルサーマルと全基を  
みんなで止める裁判の会



佐賀市伊勢町2-14 TEL:0952-37-9212 携帯:090-3949-2103  
saiban.jimukyoku@gmail.com http://saga-genkai.jimdo.com/